

ホクコートランスフォーム™フロアブル

■種類名：スルホキサフロル水和剤

■有効成分：スルホキサフロル----- 9.5%

■登録番号：第24018号

■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

■登録初年：2017.12.25

■性状：類白色水和性粘稠懸濁液体

■有効年限：5年

■包装：250ml×40本、1ℓ×12本
5ℓ×2缶

【特長】

- 「スルホキシイミン系」の新規殺虫剤で、幅広い種類のカメムシ目害虫に効果がある。
- 浸透移行性と浸達性があり、残効性に優れる。
- 速効性に優れ、耐雨性がある。

【適用内容】(2023年10月末日現在)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	スルホキサフロルを含む農薬の総使用回数
りんご	アブラムシ類	2000~4000	200~700	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	リンゴワタムシ カイガラムシ類 コアオカスミカメ	1000~2000					
なし	アブラムシ類	2000~4000					
	カイガラムシ類	1000~2000					
かんきつ	アブラムシ類 ゴマダラカミキリ成虫	2000					
	カイガラムシ類 アザミウマ類	1000~2000					
もも	アブラムシ類	2000		収穫7日前まで			
	カイガラムシ類	1000~2000					
ネクタリン	アブラムシ類	2000		収穫3日前まで			
	カイガラムシ類	1000~2000					
小粒核果類	アブラムシ類	2000					
	カイガラムシ類	1000~2000					
おうとう	カイガラムシ類 コアオカスミカメ	1000~2000					
マンゴー	カイガラムシ類	2000		収穫前日まで			
ぶどう キウイフルーツ		1000~2000					
かき							
ばれいしょ	アブラムシ類	32	3.2	収穫7日前まで	無人航空機による散布		
ごぼう		2000	100~300	収穫3日前まで	散布		
やまのいも		32	3.2		無人航空機による散布		
キャベツ	アブラムシ類 ネギアザミウマ	2000	100~300	収穫前日まで	散布		
だいこん レタス 非結球レタス 非結球あぶらな科葉菜類 ブロッコリー	アブラムシ類						

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (%/10a)	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	スルホキサフルール を含む農薬の 総使用回数				
はくさい	アブラムシ類	2000	100～300	収穫3日 前まで	3回 以内	散布	3回以内				
ほうれんそう 食用ぎく					2回 以内		2回以内				
みょうが (花穂)				コナジラミ類	1000～2000	収穫前日 まで	3回 以内	散布、但し 花穂の発生 期にはマルチ フィルム被覆に より散布液が 直接花穂に 飛散しない 状態で使用 する。	3回以内		
しそ							2回 以内			散布	2回以内
きゅうり なす ピーマン							3回 以内				
すいか メロン いちご							2回 以内				
トマト ミニトマト							3回 以内				
未成熟 とうもろこし							2回 以内				
きく							3回 以内				
つつじ類				発生初期	3回 以内	3回以内					
	アブラムシ類	2000									
	コナジラミ類	1000～2000									
	アブラムシ類	2000									
	コナジラミ類 トマトサビダニ	1000～2000									
	アブラムシ類	2000									
	アザミウマ類	1000～2000									
	ツツジゲンバイ	2000									

【効果・薬害等の注意】

- 使用前に容器をよく振ってから使用すること。
- 本剤の所要量を所定量の水にうすめ、よくかき混ぜてから散布すること。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- ぶどうに使用する場合、果実肥大期(大豆大)より後の散布においては、果粉の溶脱を生じることがあるので十分注意すること。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ◆ 散布は各散布機種種の散布基準にしたがって実施すること。
 - ◆ 散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ◆ 散布薬液の飛散によって動植物の被害や自動車の塗装等に被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ◆ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 散布器具及び容器の洗浄水等は河川等に流さないこと。また、空容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- 間引き菜及びつまみ菜に使用しないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 保管：直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。